

## 最近の道内経済動向

- 道内景気は、新型コロナウイルスの影響を主因に依然として厳しい状況にあり、弱い動きが続いている。
- 先行きは、緊急事態宣言期間中は弱い動きが続くものの、宣言の解除やワクチン接種状況の進展に伴い、次第に持ち直しに向かうと予想する。

(注) 基調判断は、2021. 9. 21時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(7～8月実績が中心)。

### ●個人消費は弱い動きがみられる

7月の主要6業態別小売店販売額(全店)をみると、百貨店などが前年から減少したものの、猛暑で季節商品の販売が好調だったスーパーや家電大型専門店などが増加した。一方、感染再拡大や感染拡大防止措置の強化などを受けて、人流は8月下旬から再び減少しており、個人消費の下押し圧力となっている。

(注) 主要6業態とは、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、及びホームセンターを指す。

### ●観光は低迷している

外国人入国者数(8月)はゼロの実績(前年同月ゼロ)。一方、7月の来道者数(国内交通機関経由)は、前年比+36.4%と5ヵ月連続で増加したものの、19年比(▲56.5%)でみれば低水準にとどまる。道内外での感染再拡大や緊急事態宣言の発出などを受けて、観光関連需要は低迷している。

(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人客数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

### ●設備投資は底入れしている、公共工事は堅調に推移している、住宅建築は緩やかに持ち直している

北海道財務局の法人企業景気予測調査(7-9月期)によると、21年度の設備投資計画(全産業、含むソフトウェア、除く土地)は、前年比▲6.3%となった(前回調査比7.0pt下方修正)。19年度をピークに製造業では減少傾向が続いている。非製造業では一部で投資マインドの悪化が下押し圧力となるものの、大型物流センター新設など競争力強化向け投資の増加が下支えしている。公共工事は、既発注分を含めた出来高ベースで高水準を維持し堅調に推移している。ただ、8月の公共工事請負金額は、前年比▲10.3%(655億円)と2ヵ月連続で前年を下回った。新設住宅着工戸数(7月)は、前年比+0.8%と5ヵ月連続で増加した。利用関係別にみると、貸家が減少したものの、持家や分譲住宅が増加し、全体を下支えした。

### ●生産は緩やかに持ち直している

鉱工業生産(7月)は、前月比+2.6%と2ヵ月連続で上昇した。好調な自動車産業向け需要を受けて「鋼半製品」の生産が増加した鉄鋼や、巣ごもり消費需要を受けて「その他の水産加工品」(惣菜等)の生産が増加した食料品などが上昇し、全体を押し上げた。

### ●輸出は持ち直しの兆しがみられる

8月の通関輸出額(速報値)は、前年比+75.1%(280億円)と6ヵ月連続で前年を上回った。品目別では、中国向け「魚介類・同調製品」や、米国向け「自動車の部品品」などが増加し、全体を押し上げた。

### ●雇用情勢は弱い動きがみられる

7月の有効求人倍率(パート含む常用)は、0.99倍(前年差+0.04ポイント)となった。飲食業や観光関連産業を中心に弱い動きが続いているものの、政府による各種支援策の下、過度な労働需給の悪化は避けられている。

札幌ビジネス地区における空室率

三鬼商事株式会社の札幌ビジネス地区の空室率をみると、2021年8月は3.07%と17年5月以来の3%台となった。北海道新幹線の札幌延伸に伴う市街地再開発の動きなどを受けて、空室率は全国他地域と比較して低水準で推移している。ただ、20年4月以降、商業系テナントの撤退やテレワークの普及といったコロナ禍による影響から、空室率の基調は緩やかな上昇基調に転じていることが分かる。

